

4月17日に本校6年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」についての結果をご報告いたします。本調査は、国語科、算数科、理科の3教科のテストと同時に、家庭での生活習慣や学習環境・学習意欲に関する質問紙調査も実施されています。3教科のテストの結果とともに、本校で重点的に取り組んでいることと学力の関連や、生活習慣と学力との関連などについて分析をしました。その概要を本校の子どもたちの状況としてお伝えします。

総合結果（国語・算数・理科）

国語科、算数科、理科の3教科ともに全国平均を大きく上回る良好な結果でした。学習指導のどの内容・領域においても高い正答率を示しています。観点別にみても「知識・技能」「思考・判断・表現」ともに正答率が高く、国語科、算数科のすべての問題において全国平均を上回る正答率であり、確かな学力がついてきていることがうかがえます。問題形式でみても、選択式・短答式・記述式の全てで良好な結果であり、どれも正答率は、全国平均を10ポイント以上、上回っていました。

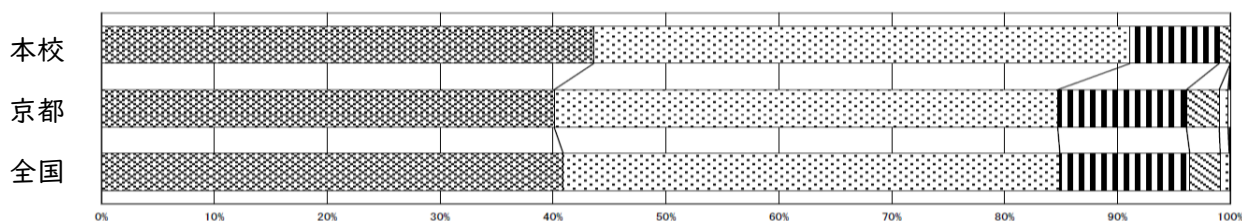
国語科の調査と児童質問紙の関連項目より

国語科の調査全般で良好な結果が出ています。特に、「話すこと・聞くこと」「読むこと」にかかわる問題で高い正答率を示しており、全国平均を大きく上回っています。本校では「対話」に焦点を当て、授業の中で話し合う活動を大切にして学習を進めてきています。その中で学年に応じた話し合いの進め方について理解し、主体的に自分の考えを話す姿がこれまでも見られてきました。また、読解の時間に学習した思考ツールなども活用しながら、考えを広げたり、まとめたりする話し合いを活発に進める様子も見られています。お互いの意見の相違点を見付けたり、目的や意図をもって対話をしたりすることで、子ども達の思考が深まり、新たな考え方に気付くこともできていると考えます。一方で、「目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる」問題での正答率が、他に比べてやや低くなっています。下に示したグラフは上述した内容にかかわる児童質問紙の結果ですが、昨年度に比べ1の割合が10%程度下がっています。このことをしっかりと見つめ、子ども達が力を付けていけるよう、さらなる授業改善に取り組んでいきます。また、読書活動を各教科・領域や日常生活の中に位置付け、各学年の発達段階に応じて行い充実させることで、確かな「読む」力を付けていきたいと考えます。

関連のある児童質問紙の項目と本校の結果

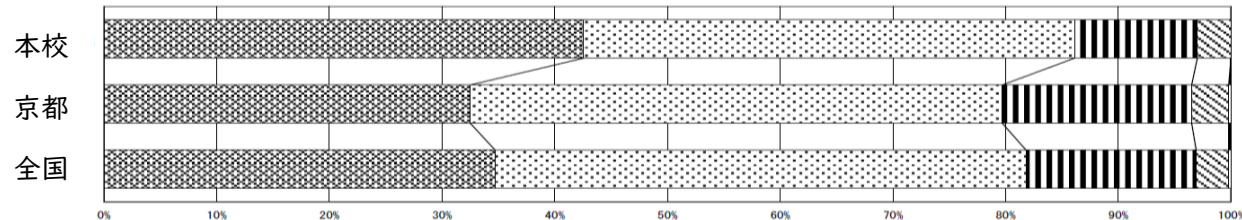
質問「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」

1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない 5. 行っていない 6. 無回答



質問「国語の授業で、目的に応じて、話すために集めた材料を、いくつかのまとまりに分けたり結び付けたりしながら、伝える内容を考えていますか。」

1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない 5. その他 6. 無回答



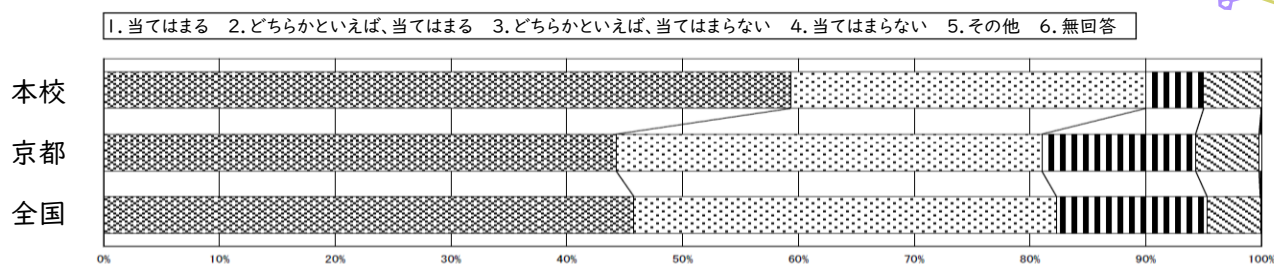
算数科の調査と児童質問紙の関連項目より

算数科の調査問題においても、全般的に良好な結果が出ています。「知識・技能」「思考・判断・表現」どちらの観点も高い正答率を示しています。特に「思考・判断・表現」の正答率が全国平均を16.5ポイントも上回る結果となりました。また、問題形式においても記述式の正答率が全国平均を17ポイントも上回る結果となりました。これは、授業の中で、正答や公式だけを求めるのではなく、自分の考えの根拠を明らかにし、言葉や式、図などを用いて記述したり、相手に分かりやすく筋道立てて説明したりすること、また、友達との話し合いを通じて自らの思考の変容や深化が見えるようにノート記述を工夫することに意図的に取り組んできたことで、子どもたちが力を付けた結果だと考えています。また、単元の学習を通して、活用力を育てることができるような課題（パフォーマンス課題）を設定し、子どもたちがより主体的に学習に取り組めるような学習形態の工夫をしてきたことも子どもたちが確かな学力を身に付けることにつながったものと考えます。今後も、思考したことを表現する力を伸ばしていきたいと考えます。

関連のある児童質問紙の項目と本校の結果



質問「算数の問題が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考えようと思いますか。」



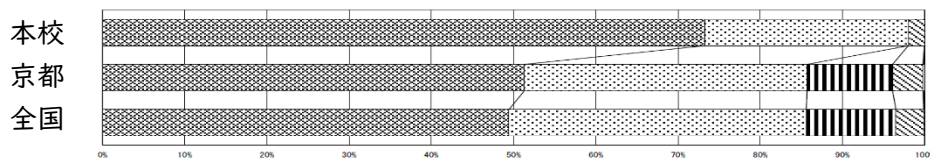
理科の調査と児童質問紙の関連項目より

理科の調査問題においても、全体的に良好な結果が出ています。「知識・技能」「思考・判断・表現」どちらの観点も全市・全国平均よりも高い正答率を示しています。「思考・判断・表現」の正答率が全国平均を14ポイント上回る結果となりました。これは、授業の中で、解決すべき問題を明確にし、予想や仮説などを基に、自分なりに分析して解釈し、結論を導き出すなど、正答だけを求めるのではなく、自分の考えの根拠を明らかにし、まとめていくような学習形態が定着してきているからであると考えられます。また、「知識・技能」についても全国平均を17ポイント上回る結果となりました。特に観察・実験などの「技能」について問う問題については、以前はやや正答率が低くなっていましたが、今回は非常に高い結果となっていました。具体的には、顕微鏡で観察するとき、適切な像にするための顕微鏡の操作を選ぶ問題の正答率が、全国平均を大きく上回る結果となっていました。これは、体験をともなった学習を確実に実践できている証拠であり、理科を専科で行っている成果だとも考えられます。今後もこのような指導体制、指導方法を続けていきたいと思います。

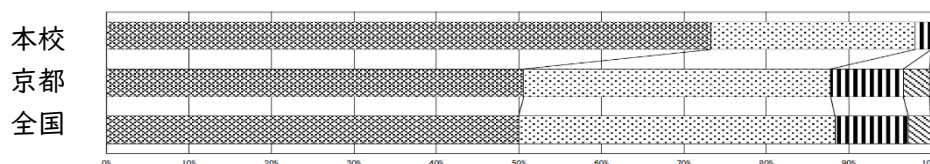
関連のある児童質問紙の項目と本校の結果

1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない 5. その他 6. 無回答

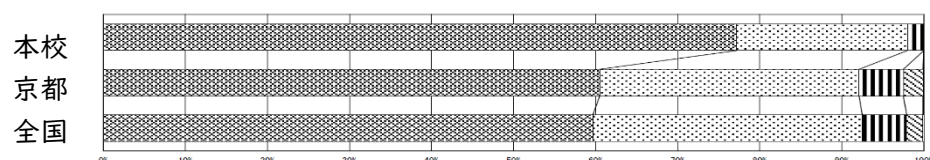
質問「理科の授業で、問題に対して答えがどのようなになるのか、自分で予想（仮説）を考えていますか」



質問「理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えていますか」



質問「理科の授業で、観察や実験をよく行っていますか」



全体を通して

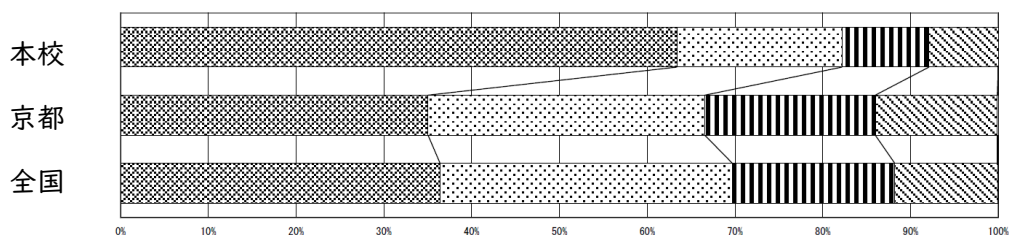
国語科、算数科、理科とすべてにおいて良好な結果が出ていることは、本校の国語科、算数科をはじめとした学習全般を包括する読解力や日常にある問題を総合的に判断し自分の考えを形成していく探究力の育成に向けた取組の大きな成果であると捉えています。

また、今年度の児童質問紙の中に特筆すべき項目がありました。それは、読書に関する項目です。次の2つの質問項目と結果をご覧ください。

関連のある児童質問紙の項目と本校の結果

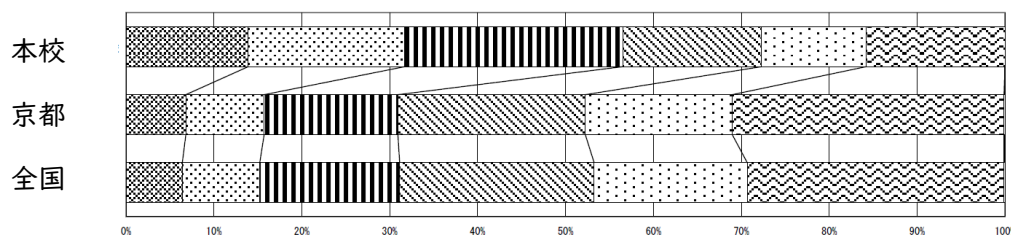
質問「読書は好きですか」

1. 当てはまる 2. どちらかといえば、当てはまる 3. どちらかといえば、当てはまらない 4. 当てはまらない 5. その他 6. 無回答



質問「学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）」

1. 2時間以上 2. 1時間以上、2時間より少ない 3. 30分以上、1時間より少ない 4. 10分以上、30分より少ない 5. 10分より少ない 6. 全くしない



「読書は好きですか?」という質問に対して、「1. 当てはまる」と回答した児童を全国と比べるとプラス27ポイント、およそ2倍となっています。

また、（月曜日から金曜日の）1日当たりどれくらいの時間読書をしているかを聞いた質問では、30分以上と回答した児童の割合が56.5%となっており、2人に1人は30分以上読んでいることが分かりました。全国と比べるとおよそプラス25ポイントとなっています。

このことから、本校の児童は、

「読書が好き」⇒「読書の時間が増加」⇒「語彙力、知識、読解力、表現力の向上」

となっているのではないかと考えます。

今年度、喜ばしいことに「令和7年度京都市子どもの読書活動優秀実践団体表彰市長賞」に本校の「スマイル21プラン委員会 読解部会」と「PTA 特別委員会 図書室と歩む会」が共同受賞いたしました。児童を読書好きにするには、学校だけの取組ではなかなか成しえませんが、この結果は、本校の強みとして挙げられる学校、家庭、地域が三位一体となって子どもたちを育てている、ところによるものではないでしょうか。

本校の児童には、知・徳・体のトータルバランスを大切に成長してほしいと願い、今後も取組を進めていきますので、今後も、学校と家庭と地域が協働する高倉小を続けていけるよう、よろしくお願いいたします。

保護者の皆様へ

全国学力・学習状況調査は子どもたちの学習状況を知り、子どもたちの可能性をさらに伸ばしたり課題を解決したりしていくためのものです。結果が学力の全てを表しているのではなく、順位を争うものでもありません。学力は、学校・家庭・地域での地道な積み重ねにより定着していくものであり、望ましい生活習慣や日々の学習習慣がその基盤となります。今後も子どもたちの健やかな育ちと学びの環境作りにご協力をお願い致します。